



株式会社 ^{しまね}ベッセル島根

高い技術力を島根から世界へ
100年先を見据えて挑み続ける

13
LEADING
COMPANY

ビット国内シェアトップ

電動工具の先端に付ける工具を「ビット」という。ビットを回転させることで、穴を開けたり、ネジを締めたりする作業をスピーディかつ精密に行うことができるため、さまざまなものづくりの現場やDIYなどに欠かせないアイテムだ。このビットを半世紀近く作り続けているリーディングカンパニーが《株式会社ベッセル島根》だ。「ネジの種類だけビットがある。極端な話、1本からでもオーダーメイドを受けるので、生産品目は1万種にも上るでしょう」。田口二郎社長(64)の言葉には、業界トップの誇りが感じられる。

地元自治体の熱心な誘致を受ける形で1974年、奥出雲町に本社工場を設置。グループ会社が開発した世界初の両端ビットや新たに開発したトーションビットなどが爆発的ヒットを生んでおり、生産拠点の増強が望まれていたのだ。創業当初の月産能力は約15万本。しかし、需要の高まりに応じて年々設備を拡充し、現在は2工場で毎月200万本ものビットを生産している。

ベッセル島根の強みの一つが、ブランド創業から100年の年月を経て培われてきた高い技術力だ。「た

とえば精密機械などに使われる1ミリに満たないようなネジから、強力な締め付け力が必要とするコーススレッドまで、求められる溝に最適なビットを作り上げることができま」と田口社長。「1本や10本の受注では正直利益は出ません。それでも、お客様が必要とってくれる限り、作り続ける。それがマーケティングという名のプライドです」

名実共にリーディングカンパニーの道を歩み続ける今も、匠の技は守りに入ることはない。高付加価値の商品を次々と生み出しており、ベッセルオリジナルの新素材ダイハート鋼を採用した《剛彩ビット》シリーズは、130種以上の商品を展開。月40万本販売する人気商品だ。

今も伝統的なたたら製鉄の技術が残る奥出雲、ゆかりの地に拠点を置くベッセル島根では、日本刀を鍛える際に使われる技術を生かした高度な熱処理技術「プラズマ浸炭」の研究を進めている。次世代ビットが生まれる日はそう遠くない。



大型船の意味を持つ「VESSEL」。田口社長の部屋はまるで船長室のような設えて、訪れた人らとの会話も弾む

世界を見据え、新事業に着手

ベッセルブランドとして販売されているビットはすべて、奥出雲の地で生まれている。「島根発のツールが、全国各地に羽ばたいているのです」と話す田口直人副社長(33)。しかし、その視線の先はさらに遠い。「目指すは、本格的な世界進出。そして航空宇宙産業や船舶産業など新たな販路拡大も狙っています」

日本の工具市場は、専業メーカー各社に生産を任せられる形が浸透している一方、海外では総合工具が揃って初めてブランドが認められる。ドライバーとビットにおいては全国シェアトップを誇るベッセルブランドだが、世界を視野に入れるには足りないピースを強化していく必要があるという。「つちは建築や精密機械などの産業分野には強いですが、モビリティ分野で需要の高いツールにはまだまだ弱い。新たな挑戦が必要なのです」。2022年8月、軌跡ビームコントロール(LBC)テクノロジーを搭載した高輝度のファイバーレーザーマシンを仁多工場に導入。「新たな技術と、豊富な実績を誇る既存技術を掛け合わせて、従来の枠を超えた商品創出に結び付けていきたい。弊社には、その力がある」と自負しています

世界を狙うには、世界を知る必要がある。22年9月には、ドイツで開かれる世界最大の工具・金物展《ケルン国際ハードウェアショー》に田口副社長始め4人の社員が参加。コロナ禍前は、工場長らが毎年のように欧州メーカーなどを視察していた。「世界の一流が集まる場所。技術はもちろん、海外メーカーのブランドも学べ、商談のチャンスもある。社員にも最先端を感じ、モチベーションを上げてほしい」

100年を超える歴史を持つベッセルブランド。しかし若い副社長に守りの姿勢はない。「工具だけにすがりつく気はありません。いろいろなチャレンジを考えています」。そこには父である田口社長譲りの開拓者魂が垣間見える。「特別なスキルは必要ありません。ワールドワイドに活躍したい人、ものづくりが好きな人、そしてチャレンジ精神のある人は大歓迎です」



「堅実派のグループ社長の伯父に比し、「攻めが最大の防御」という父。両者の長所を受け継ぎたい」と田口副社長



地域に根差して半世紀。奥出雲から世界へ

奥出雲の山間部に工場を構えて50年余の《ベッセル島根》。ベッセルブランドの「ビット」は国内シェアトップを誇るが、そのすべてがこの地から生み出されている。奥出雲町民が100人以上勤務するなど、地域に根差した企業としても知られている。



精密機器で正確な形状を測定

企業からのオーダーメイド製造も少なくなく、発注元のネジの溝を3次元測定器などで徹底的に調べ上げて、現場のニーズに応えている。



世界を視野に最新設備を積極的に導入

工場内に並ぶ最新のテクノロジーを搭載したレーザーマシン(左)や、コンピュータ制御のCNC工作機械(右)。世界を視野に入れた新技術開発に向け、設備強化も積極的だ。



創業当時から活躍する機械設備も

900度もの熱で焼き入れ作業を行うソルトバス炉は、創業当時から稼働(左)。高品質なビット生産には欠かせない重要な工程で、現在はロボット化を実現している。



DIYからプロまで。高い評価を受けるファスニングツール

各地のホームセンターなどに並ぶベッセルのファスニングツール。1961年には世界で初めて「両頭ビット」を開発、空前の大ヒットを記録した。

VESSEL

株式会社 ベッセル島根

業種 製造業

事業内容 ドライバービットの開発・製造

創業 昭和49(1974)年3月
 代表者 代表取締役 田口 二郎
 社員数 113名(男67名 女46名)
 〒699-1822
 島根県仁多郡奥出雲町下横田1093-1
 TEL/0854-52-2508

https://vessel.co.jp/

- 株式会社ベッセル
- 株式会社ベッセル工業
- 株式会社ベッセル福知山
- ベッセル技工工業株式会社
- ベッセルタイランド
- ベッセルヨーロッパ
- ベッセルチャイナ
- ベッセルツールズU.S.A

求める人材像 

- ベッセル島根のスローガンは【世界中にVESSELを届ける】です。この目標の達成に協力していただける方を募集しています。
- 自分で苦勞して生み出したものを世界に向かって送り出したい方集まってください。

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0854-52-2508

採用直通 E-mail

soumu@vs-shimane.co.jp (総務)

資料請求

インターンシップ

会社見学

動画サイトは
こちら公式サイトは
こちら

頭の中のイメージを立体化できる

父親が大工で、幼い頃からさまざまな工具が家にあったという荒金さん。「小学生の時は父に聞きながら木工工作に夢になったのを覚えています。頭の中にあるイメージを立体物として完成させていくのが、ものづくりの魅力」

フライス班で、CNC複合加工機を使った切断・加工作業を担当。プログラムを打ち込んだ機械を一度に6台も同時に動かし、鋼材の先端をプラスやマイナス、トルクス(六角星型)、ヘックス(六角)などさまざまな形に加工していく。「プログラムを間違えて図面と違うものができてしまったことも(苦笑)。確認を徹底した上で効率良く動くことが大事です」

父の工具箱の中にもベッセルのビットがある。「誇らしいですね」



製造課フライス
荒金 颯さん(22)
(入社4年目)

関数電卓用いてプログラミング

小学生の時は城のプラモデル作りにのめり込んでいた。「何日もかけて形を完成させた時の達成感は何とも言えません」。中学の頃から地元での就職を考え始め、ものづくりに携われるベッセル島根に足を踏み入れた。

旋盤を使った鋼材加工を担当。図面をもとに関数電卓で計算して作ったプログラムを機械に打ち込み、鋼材をチップで加工していく。「数学は唯一得意な教科でしたが、タンジェント(三角関数)とかが普通に出てきて、最初は全然分かりませんでした。上司に教えてもらい、少しずつできるように」

休日は、長年続けてきたホッケーを中学生に教えている石山さん。「仕事と両立できそうなので、社会人チームへの加入を思案中です」



製造課第二旋盤
石山 陸人さん(20)
(入社2年目)

自ら開発した商品をアメリカ市場で販売

小さい頃からものづくりに興味があり、大学で機械工学を学んだ後、自宅から自転車で通える《ベッセル工業》(大阪市城東区)に就職した。開発した新商品の品質チェックなどを行う部署を経て、海外向けの商品を企画する技術部に配属。出張でアメリカやオーストラリアに渡ることが多く、海外での仕事に興味を持つようになった。

英会話を学んで2019年に渡米、仕入れや出荷などの販売活動から市場調査・企画までさまざまな業務を担う。「"必要最大限"を求めるアメリカ市場に対応した商品を考えています」。ベッセル工業時代、自身が既存商品を改良し、より性能を良くした開発商品を、現在は米国市場で販売。「やりたいことを何でもできる会社です」



ベッセルツールズU.S.A
川畑 万里菜さん(32)
(入社10年目)

「ものづくり」を支える社員たち

試行錯誤を繰り返し、100分の1ミリの精度を実現



製造課第二旋盤係長
渡部 大輔さん(37)
(入社19年目)

入社以来製造課一筋。「図面を見て、機械の能力を考慮した上でプログラムを作成したり、工具を選定したりして加工します。経験や技術が求められる仕事。100分の1ミリの精度が求められるような商品をうまく製品化できた時は、やりがいを覚えますね」。材質や形状によっては加工中に折れることも。回転数やスピードを変えるなどして何度も試行錯誤を繰り返す。オーダーメイドが多いため、日々挑戦が求められるのだ。

今年から、NC旋盤や面取り加工などの4部門を担う第二旋盤係の係長に就任、職場環境の改善にも注力する。「段取り一つで作業効率も変わります。考えることが増えましたね」

会社が新たに挑む事業も担当。運び込まれた最新鋭の設備の前に、「まずは機械に慣れないと」と苦笑しつつ、「老舗でブランド力もあるのに、新しいことに挑戦し続ける会社。新事業を成功させたい」と意気込みを見せる。

携わった商品が身近なホームセンターに

結婚を機に、自動車部品製造会社から転職した。「夜勤がない職場を探していました。小さい頃からベッセルの存在は知っていたし、製造業は続けたかったです」

品質保証課で、製品の管理や検査を担当する。たとえば、表面処理の黒染め加工に色ムラがあったり、はがれたりしていないかを数千本のロットから数十～数百本抜き取って確認。サビなどを見つけた時には、手直しを求めることもある。「そのままお

客様に届いてしまっは大変。丁寧かつスピーディなチェックを心掛けています」

スタッフが品物の厚みや長さを測定するために使っている、マイクロノギスやダイヤルケージなどの道具を定期的にチェックするのも土屋さんの役割。仕上がった製品を3D測定器やマイクロスコープなどで検査し、曲がりや反りがないか確認する作業も担う。「ホームセンターで自分が関わった商品を見ると、やりがいを感ずますね」



品質保証課品質管理
土屋 嗣将さん(35)
(入社3年目)

完成したビットを手作業でチェック、梱包



生産管理課包装主任
井上 いずみさん(48)
(入社19年目)

製造課熱処理
井上 みなみさん(22)
(入社1年目)

奥出雲町民が100人以上働いているベッセル島根。入社1年目の井上みなみさんが最も頼りにしているのは、19年間勤めるベテランの母いずみさんだ。「担当外のことも何でも知っているの、自宅でもいろいろ聞いています」

いずみさんの業務は、完成品の包装。製品に不具合がないか1本ずつチェックした上で、手作業で商品化していく。「お客様に届く前の最終工程なので神経を尖らせています。1日に作るのは1~2万

セット。社員の負担軽減のため、上司と相談しつつ、機械化を進めています」。元々製造業には興味なかったといういずみさん。入社して意識が変わったという。「同じ作業を繰り返すイメージでしたが、工夫すればコストダウンや効率化を図ることができ、やりがいを覚えるようになりました」

社員からの信頼も厚い自慢の母を持つみなみさん。「超特急のスピードで技術を習得できそうです」